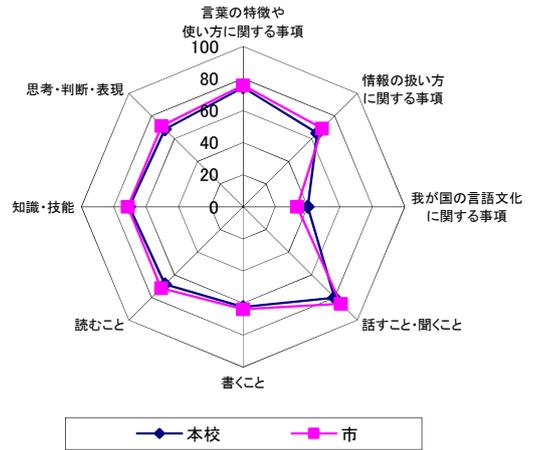


宇都宮市立清原北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	74.4	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	65.0	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	40.0	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	80.0	85.5	86.5
	書くこと	62.5	63.9	65.8
	読むこと	68.3	71.6	69.5
観点別	知識・技能	70.5	71.3	72.9
	思考・判断・表現	68.3	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

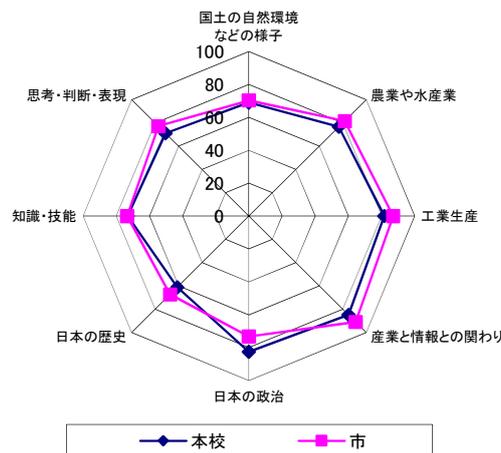
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、市の平均を1.4ポイント下回っている。 ○●第5学年に配当されている漢字を書く問題では、二問は市の正答率より高かったが、「防災」を書く問題では、18.8ポイント低かった。6年生の漢字の読みは、市と同じか市の平均より低かった。 ○三字の熟語の成り立ちについて答える問題では、市の平均より7.8ポイント低かった。 ○敬語について正しく理解している児童の割合は市の平均より、11.9ポイント高かった。	・漢字の学習については、ミニテストやステップアップシート等を実施し、朝の学習の時間や家庭学習などで計画的に取り組みさせていく。基礎的な練習だけでなく、文章の中でも漢字を使えるよう継続して指導する。 ・熟語の成り立ちの基本パターンを再度確認したり、熟語のどこで意味が切れるか、スラッシュを入れる練習をさせたりする。プリント学習だけでなく、ゲーム感覚で取り組めるアウトプット活動も取り入れる。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を4.1ポイント下回っている。 ●原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうか確認する問題では、正答率が65.0%と市の平均を4.1ポイント下回った。	・文章の中で、どの部分が原因や結果を表しているかを読み取るために、授業の中で復習し、定着を図る。また、朝の学習や宿題等で類似問題に取り組ませる。 ・読み手のことを意識しながら情報をまとめる力を伸ばすために、文章を互いに読み合う活動を継続して行う。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均を6.5ポイント上回っている。 ○和語、漢語、外来語について理解している児童が40.0%であったが、市の平均を6.5ポイント上回った。	・語句の由来や和語、漢語、外来語について、随時ワークシートやミニテストを行って確認し、単元の学習後も継続して指導し、更に知識・理解を定着させる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を5.5ポイント下回っている。 ●意図に応じた質問の工夫を選ぶ問題では、市の平均より9.3ポイント低かった。	・聞く力・話す力の育成を図るため、話し手の意図を考えながら話を聞かせたり、自分の立場を明確にして話したりする機会を多く設けるようにする。特に、話し合い活動で相手の意図を正しく理解するために、どんな質問をしたらよいのか、具体例を挙げて考えられるようにするため、クラス全体で確認しながら話し合いを行えるようにする。
書くこと	平均正答率は、市の平均を1.4ポイント下回っている。 ○文章全体の構成や展開を考え、2段落構成で書く問題では、市の平均より9.2ポイント高かった。 ●目的に応じて、文章を簡単に書く問題では、正答率が25.0%と市の平均を22.6ポイント下回った。	・定められた条件の中で文章を書く機会を意図的に設けて、文章を書かせるようにする。また、相手の意図を正確に捉え、自分の立場や考えを明らかにしたり、予想される反論などを考えて文章を書けるよう指導したりする。 ・一人一台端末を活用し、互いの文章を読み合い書き方の参考にしたり、自分の文章を推敲したりする時間を設け、文章を書く力を向上させる。
読むこと	平均正答率は、市の平均を3.3ポイント下回っている。 ○説明文においては、叙述を基に文章の内容を捉える問題で、市の正答率を4.4ポイント上回った。 ●物語文においては、登場人物の心情について、描写を基に捉える問題の正答率が、60.0%で市より17.0ポイント低かった。	・物語文では、授業において情景描写と人物の心情の関連に気付かせたり、工夫して音読したりするなどして、より深い心情表現を理解させる。 ・説明文では、段落ごとの要旨や文章構造をまとめる活動に取り組ませるとともに、筆者の意図を正確に捉えられるようにする。 ・学校図書館を積極的に活用し、読書活動を一層充実させる。

宇都宮市立清原北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	69.0	70.3	66.4
	農業や水産業	76.7	81.6	75.3
	工業生産	81.7	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	85.0	91.0	81.3
	日本の政治	82.5	73.2	75.3
	日本の歴史	61.3	67.4	68.5
観点別	知識・技能	73.1	73.5	72.5
	思考・判断・表現	71.1	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

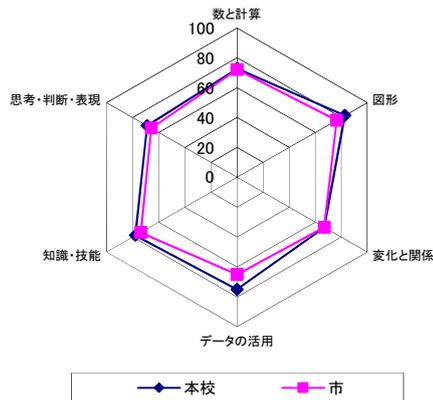
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均正答率は、市の平均を1.3ポイント下回っている。 ○日本の周辺の海洋名を選ぶ問題の正答率は、市より5.3ポイント上回った。 ○季節風について理解しているかを問う問題の正答率は、市より11.5ポイント上回った。 ●近年日本で起きた自然災害の発生場所についての理解を問う問題の正答率は、市より15.3ポイント低かった。</p>	<p>・引き続き、日本周辺の国々の位置や海洋名など、世界地図等の資料を活用しながら正しく理解できるように指導していく。 ・日本の主な地形について、デジタル教科書や資料集、一人一台端末等を活用して確認させる。</p>
農業や水産業	<p>日本の食料生産についての問題は、全ての問題で県の平均を下回った。平均正答率は、市の平均を4.9ポイント下回っている。 ●米の生産が盛んな地域について、地図を読み取る問題の正答率は3.7ポイント下回った。 ●米の品種改良についての理解をもとに、資料を読み取り表現する問題の正答率は、市より6.3ポイント低かった。</p>	<p>・日本の農業や水産業の生産の工程や流通の仕組みなどについて関心を高めるとともに、グラフや資料からどんなことが分かるのか、分かったことからどんなことが考えられるのか等を話し合いながら理解を深めさせていきたい。</p>
工業生産	<p>平均正答率は、市の平均を5.3ポイント下回っている。 ●日本の貿易の変化について、資料をもとに表現する問題の正答率は、市より12.4ポイント低かった。</p>	<p>・日本の工業の特色や自動車の製造工程、工業製品の分類などについての理解を深めることができるよう、調べ学習や話し合い活動を取り入れるなど指導の工夫を図っていく。</p>
産業と情報との関わり	<p>平均正答率は、市の平均を6.0ポイント下回っている。 ●情報の発信と受信の注意点について考える問題では、正答率が市より9.0ポイント低かった。 ●情報を生かした産業について考える問題では、正答率が市より3.1ポイント低かった。</p>	<p>・道徳や特別活動など、他の授業との関連を図りながら、インターネットを使用する際の注意点について正しく理解を深め、効果的に活用できる力を身に付けさせていく。</p>
日本の政治	<p>日本の政治についての問題は、全ての問題で県の平均を上回った。平均正答率は、市の平均を9.3ポイント上回っている。 ○法律ができるまでの流れについて、資料を読み取る問題では、正答率が市より9.1ポイント上回っている。 ○租税の役割についての理解をもとに判断する問題では、正答率が市より13.0ポイント上回っている。</p>	<p>・今後も、資料や図を活用し、法律ができるまでの流れについての理解を深めさせていく。 ・今後も、税金の使い方について、資料や図を活用しながら理解を深め、学習内容の定着を図る。</p>
日本の歴史	<p>平均正答率は、市の平均を6.1ポイント下回っている。 ○かな文字の理解についての理解を問う問題の正答率は、市より22.0ポイント高かった。 ●能の理解についての問題の正答率は、市より22.1ポイント下回った。</p>	<p>・年表や図表、地図、映像等の資料を活用しながら、歴史的な事象や文化、歴史上の主な人物の政策等についての学習内容の定着を図る。</p>

宇都宮市立清原北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.7	72.1	74.6
	図形	82.8	76.5	76.1
	変化と関係	67.0	67.1	59.7
	データの活用	75.0	65.0	64.5
観点別	知識・技能	77.9	73.8	74.7
	思考・判断・表現	68.9	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

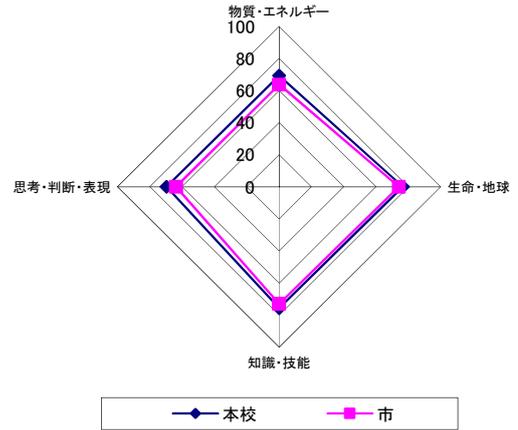
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○小数のかけ算の問題では、正答率が95.0%で市より15.2ポイント上回っている。</p> <p>○2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題の正答率は、80.0%で市の平均より9.8ポイント高い。</p> <p>●基準量が分数の場合において、分数倍の比較量を求める式を選ぶ問題では、市の正答率を12.6ポイント下回っている。</p>	<p>・朝の学習や家庭学習の中で計算ドリルやAIドリルなどを活用し、小数や分数のかけ算、わり算の計算の仕方を繰り返し練習することで、学習内容のさらなる定着を図る。</p> <p>・問題を解く際に、テープ図や数直線、具体物などを用いて数量の関係を表したり、数の処理の仕方を説明する機会を多く設けたりしていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均を6.3ポイント上回っている。</p> <p>○半径が与えられた円の面積を求める式を選ぶ問題や点対称な図形の対応する2つの点を結んだ直線の長さを求める問題において、いずれも正答率が95.0%で市より10ポイント以上高い。</p> <p>●3辺の長さを使って、合同な三角形を作図する問題では、正答率が85.0%で、市の平均を6.0ポイント下回っている。</p>	<p>・作図の学習では、基礎的なかき方や作図に必要な条件を確認したり、図形の性質を生かした作図の仕方について考察したりしていく。</p> <p>・実際にコンパスや定規を用いて図形をかく際は、個に応じた丁寧な指導を行っていく。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○基準量と割合から比較量を求める問題では、市の平均より6.3ポイント高かった。</p> <p>●表から車両数と人数の割合を求め、どの路線が最も混んでいるかを考察する問題では、市の正答率を14.4ポイント下回っている。</p>	<p>・日常生活での場面を取り上げ、図や表から必要な情報を読み取ったり、面積や人数に着目し、比較して捉える学習活動を多く取り入れたりしていく。</p> <p>・日頃から人口密度を求めたり、分速を秒速や時速に直す場面を考えたりすることで、さらに理解を深めさせていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均を10.0ポイント上回っている。</p> <p>○円グラフの読み取りは、80.0%で市の正答率を23.3ポイント上回っている。</p> <p>○ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録がいちばん多いわけではないことを説明する問題の正答率は60.0%であったが、市の平均を24.5ポイント上回っていた。</p> <p>●値に0がある分離量の平均を求める問題の正答率は、市より1.0ポイント低かった。</p>	<p>・平均の求め方を復習し、さらに求めた平均をどのように活用するのかが確認するなど、日常生活と結び付けて考えさせるようにする。</p>

宇都宮市立清原北小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.3	63.8	61.6
	生命・地球	76.6	74.1	73.3
観点別	知識・技能	75.6	73.0	71.3
	思考・判断・表現	69.6	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均を5.5ポイント上回っている。</p> <p>○物質とエネルギーの領域において、多くの問題が市の平均を上回った。特に、「水よう液の性質」の問題の正答率は、市の平均より大きく上回った。リトマス紙の反応と水溶液の液性についての理解を問う問題の正答率は、市の平均を12.8ポイント上回った。</p> <p>●「電流のはたらき」の電磁石の強さを変える要因を指摘する問題の正答率は、市の平均を7.9ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、実験や観察に使う用語や器具の操作方法などの知識・理解の定着を図る。 ・単元においての課題のねらいや解決方法を正しく捉えさせ、予想や仮説を立ててから実験・観察等に臨み、結果を考察する活動や互いの考えを伝え合う活動を取り入れ、思考力や表現力を高めていく。
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均を2.5ポイント上回っている。</p> <p>○「流れる水のはたらき」や「動物のからだのつくりとはたらき」、「植物のつくりとはたらき」の内容については、すべての問題において市の平均を上回った。流れる水のはたらきについて、目的の結果を得るための実験の方法を構想し、説明する問題では、市の平均を13.1ポイント上回った。</p> <p>●「生き物とかんきょう」の環境の変化によって、生物どうしの関わりに、どのような影響があるのかを推測する問題の正答率は、市の平均を7.7ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知識及び理解を定着させるため、身の回りの自然現象に目を向けさせ、その仕組みを図や言葉でまとめるなど、新しい知識への関心を高める。また、実際の観察・実験が困難な単元では、引き続き模型やICT等を活用し、より分かりやすい授業展開に努める。 ・思考力・判断力・表現力を向上させるため、実験や観察の目的とゴールを明確にし、児童の予想や結果、考察がその目的に沿っているかを確認したり、互いの考えを発表する場を多く設けたりする。

宇都宮市立清原北小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童一人一人の達成感や成 就感を高める授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲を高める導入の工夫や、めあての提示と見通し、学習の振り返りを徹底した授業づくり ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教材や授業展開の工夫 ・デジタル教材やタブレット等のICT機器の効果的な活用 	<p>アンケートにおいて、「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の項目では、肯定回答が2～5年生では9割を超えている。「学習していろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい。」の肯定回答は、すべての学年で9割を超えている。引き続き児童の興味関心に合った題材の選択や、学習意欲を高める導入の工夫など、授業づくりに取り組んでいく。</p> <p>「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている。」の項目で、肯定回答の割合が4年生が市の平均より高く3・5・6学年は低かった。また、「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる。」の項目でも、肯定的回答が4年生が市の平均より高く3・5・6学年は低かった。</p>
家庭学習の充実と習慣化	<ul style="list-style-type: none"> ・記録表を活用した家庭学習の実施 ・学期末や年度末に「清北まとめの学習週間」を設定し、実施 ・自主学習の内容例や参考になるよい実践の紹介 	<p>3年生以上のアンケートにおいて、「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」の肯定回答は、4年生は市より高かったが、3・5・6年生は低かった。学習時間においては、平日は下学年は30分、上学年は1時間と回答している児童が多かった。再度、自主学習の進め方を確認したり、よい実践を紹介して、参考にさせたりするなど、家庭と連携し、学年に応じたよりよい家庭学習の習慣化を図っていく。</p>

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・基礎・基本の確実な定着を図るための個に応じた指導や児童の興味関心に合った教材作り、学習意欲を高める導入の工夫などに取り組んでいく。
- ・自己表現や相互理解・相互交流を促す活動の工夫を行う。
- ・ICT機器の効果的な活用を行う。
- ・自主学習の進め方を確認したり、よい実践を紹介して参考にさせたりするなど、家庭と連携し、学年に応じたよりよい家庭学習の習慣化を図っていく。